

(三) 田村又吉 — 模範村をつくった村長

田村又吉は、天保十三年（一八四二年）、稲入谷の農家に生まれました。明治二十二年（一八八九年）に稲取村の初めての村長になります。村長としての又吉は、天草の干し方を研究したり、植林をしたりして村を豊かにすることに努めました。

また、道路や船揚場などを作ったり、伝染病を防ぐために水道を敷いたりしました。その他にも小学校の校舎や病院の建設に取り掛かるなどとても優れた業績を残しています。

明治二十五年（一八九二年）に村長を辞めてからは、入谷に農家の組合を作り、みんなでお金を出し合って助け合うようにしました。

また、みかんの栽培や、蚕を飼うことなどに力をいれ、農家の収入が増えることを目指しました。教育にも力をいれ、その頃の稲取小学校の校長であった太田米吉と相談をして、入谷に青年の男・女、成人、老人などの勉強

の会を作り、学校教育以外の社会教育や家庭教育を広めることに努力しました。

このような又吉の取り組みは広く知られるようになり、明治三十七年（一九〇四年）には藍綬褒章という勲章を受けました。又吉は日本中で有名になり、各地に出かけて、稲取村での活動について講演をして回りましたが、大正元年（一九一二年）、講演に出かける途中、病気のため天城で亡くなりました。



福建視察団集合写真より抜粋